

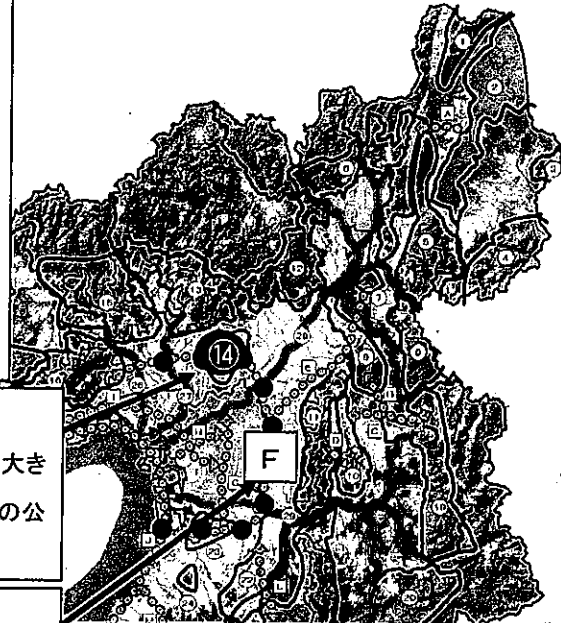
# 万博記念公園における今後の緑の方向性

1. 「近畿圏の都市環境インフラのグランドデザイン」における位置づけ(国)

○水と緑のネットワーク形成(近畿圏の自然環境の骨格構造)

<「保全等を検討すべき地域」>

1. 多様な機能を有するまとまりのある自然環境
2. 近畿圏の特徴である歴史的資源と自然環境が一体となっている地域
3. 21世紀型の視点として市民等の利用ニーズや活動のある地域
4. 水と緑のネットワークの骨格となる以下の地域
  - ・都市の周辺部に位置し、市街地を取り巻くまとまりのある樹林地
  - ・都市の周辺部に位置し、水田、樹林地、水辺などの混在する地域
  - ・都市近郊に残存する、または分断されつつある樹林地や草地環境
  - ・都市部を流れる主な河川や沿岸域に残存する干潟等の水辺環境



⑭北大阪丘陵地

大阪北部の豊中・吹田・茨木・箕面にまたがるなだらかな丘陵地域。…最も大きな緑地のまとまりとして万博記念公園が存在するほか、服部緑地など数多くの公園が点在しており、快適な生活環境の提供の一助となっている。

⑮都市を環状につなぐ軸

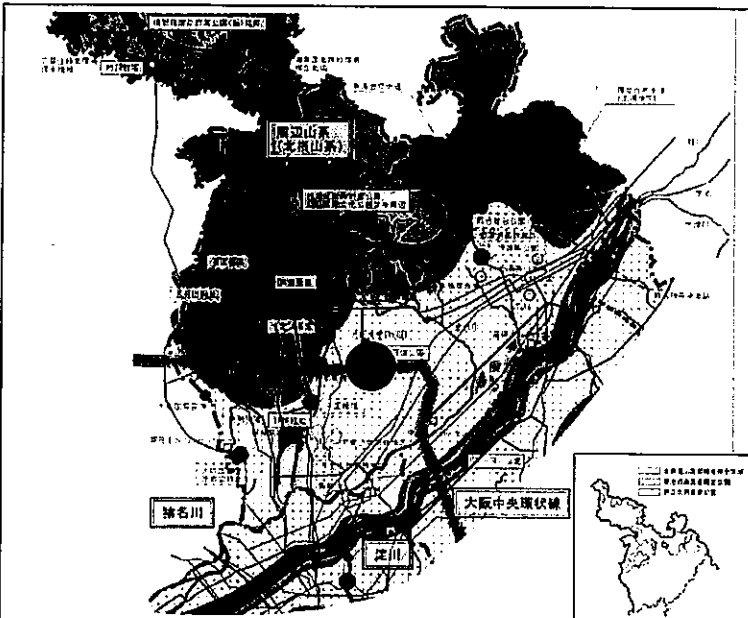
…この沿線は緑のまとまりに極めて乏しい一体であり、特に自然とのふれあいや景観形成の観点から自然環境のまとまりが必要な地域である。…沿線部における公園緑地を初めとする緑の創出を行いグリーンベルトの形成を目指す。…

広域地方計画への反映

…近畿ブロックの広域地方計画協議会に対して本グランドデザインの活用を働きかける…

2. 「みどりの大阪推進計画」の位置づけ(大阪府)

○既存の大規模公園を北大阪地域の「海と山をつなぐみどりの風の軸」形成における「骨格となるみどり」として保全



3. 吹田市第2次みどりの基本計画における位置づけ(吹田市)

- 大規模な公園をみどりの「拠点」と位置づけ
- 公共のみどりを保全し次世代に継承

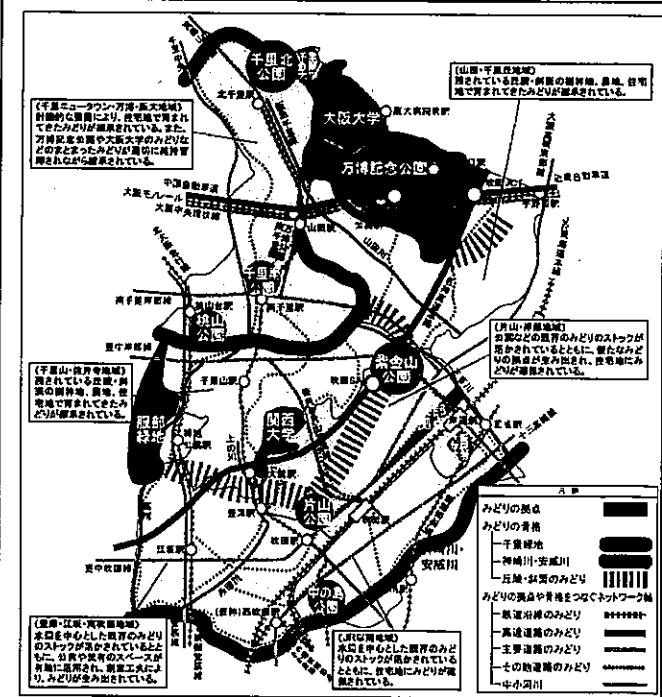


図3.1 みどりの将来像

3. 各計画に記載される万博記念公園の緑の姿

◆近畿圏の都市環境インフラのグランドデザイン(H18.08) - 都市再生法 -

第5章: 都市環境インフラの将来像の実現に向けた行動方針(都市周辺地域)

…都市周辺地域では、残存する自然環境を保全するとともに、既成都市地域と同様に様々な場所で再生・創出を進め、人と自然がふれあい、安全で快適な都市環境の形成に重点を置いた各種の取組を進める。また、大部分を占めている民有地の緑化の推進により緑豊かなまちづくりを進め、既成都市区域と周辺地域を結ぶネットワーク機能の強化を図る。

◆近畿圏広域地方計画(H21.08) - 国土形成計画法 -

第3節: 目指す姿を実現するための戦略

(健全な流域圏と生態系の管理・再生)

…生物多様性の確保に重要な役割を果たす優れた自然環境を保全・再生するため、過去に損なわれた生態系の回復を図るとともに、希少野生生物の保護管理、里地里山等の二次的自然環境や市街地等に残された自然環境の保全、郷土種を保全するための外来種の防除等生育に必要な環境整備を適切に行う。

(自然との共生の推進)

…都市圏においては、近郊緑地保全区域等の指定拡大を図るとともに、都市公園の整備、屋上・壁面や公共空間等の緑化、都市内農地の保全等による都市の緑の整備、親水性の向上、運河の再生やため池の保全を推進する。

第4節: 主要プロジェクト

(「緑のヒンターランド」の保全と都市のみどりの創出)

…京阪神都市圏において、生物の移動経路の連続性やまとまりのある緑地が確保され、生物多様性の確保に寄与する都市の緑を創生するため、「近畿圏の都市環境インフラの将来像」等を踏まえ、大規模緑地の整備、大阪中央環状線「中環の森」等の沿道空間の緑化、屋上・壁面や校庭の緑化等により計画的な緑化を推進するとともに、進捗状況の点検を行う。

◆みどりの大阪推進計画(H21.12) - 都市緑地法 -

第2章: みどりの大阪実現戦略(基本戦略2 みどりの風を感じるネットワークの形成)

…主要道路・主要河川・大規模公園緑地を軸や拠点として、環状・放射状・東西方向などの、みどりの連続性や厚みと広がり確保し、周辺山系や大阪湾の豊かな自然を街へと導く「みどりのネットワーク」を形成します。

◆吹田市第2次みどりの基本計画(H23.03) - 都市緑地法 -

第5章: みどりのまちづくりの方針(千里ニュータウン・万博・阪大地域)

…関係機関に働きかけ、万博記念公園の将来にわたる一体的保全・存続を図ります。

◆吹田市都市計画による都市計画公園の決定 - 都市計画法 -

公園種別: 広域公園 名称: 9・6・205-1 万博公園 計画決定告示年月日(当初)S42.11.06 建告 308号(最新)H16.12.28 府告 2404号  
都市計画決定面積: 129ha(外周道路内) 事業認可 S43.03.28 建告 236号 129ha 開設面積 0.0ha

4. 各計画より求められる万博記念公園の緑の姿

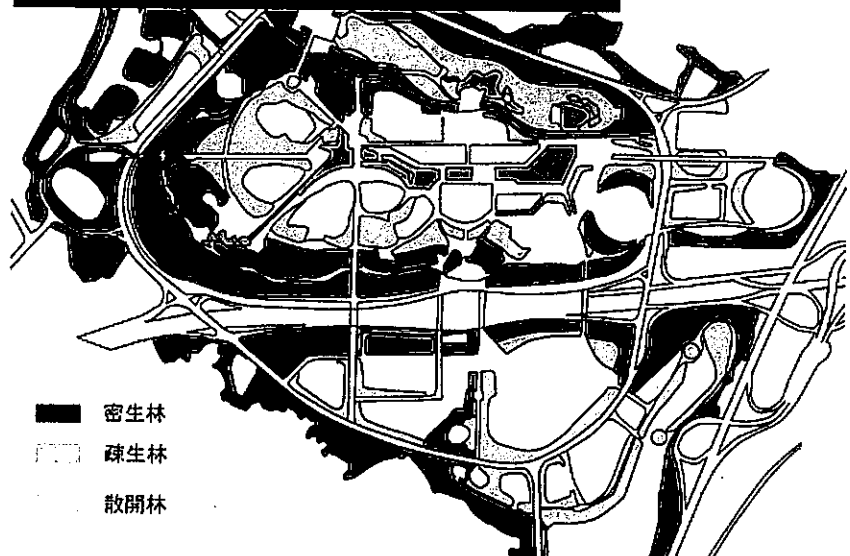
- ① 都市環境インフラのグランドデザイン・近畿圏広域地方計画  
「自然環境の保全」「人と自然のふれあい」「安全で快適な都市環境形成」「ネットワーク機能強化」
- ② みどりの大阪推進計画  
「緑のネットワークの拠点」「緑の連続性や厚みと広がり確保」
- ③ 吹田市みどりの基本計画  
「万博記念公園の将来にわたる一体的保全・存続」

- ① 近畿圏を俯瞰し設定された、「水と緑のネットワーク」の重要な「緑の拠点」
- ② 都市圏の重要な「人と自然のふれあいの場」

## 1. 緑に対する社会的要請

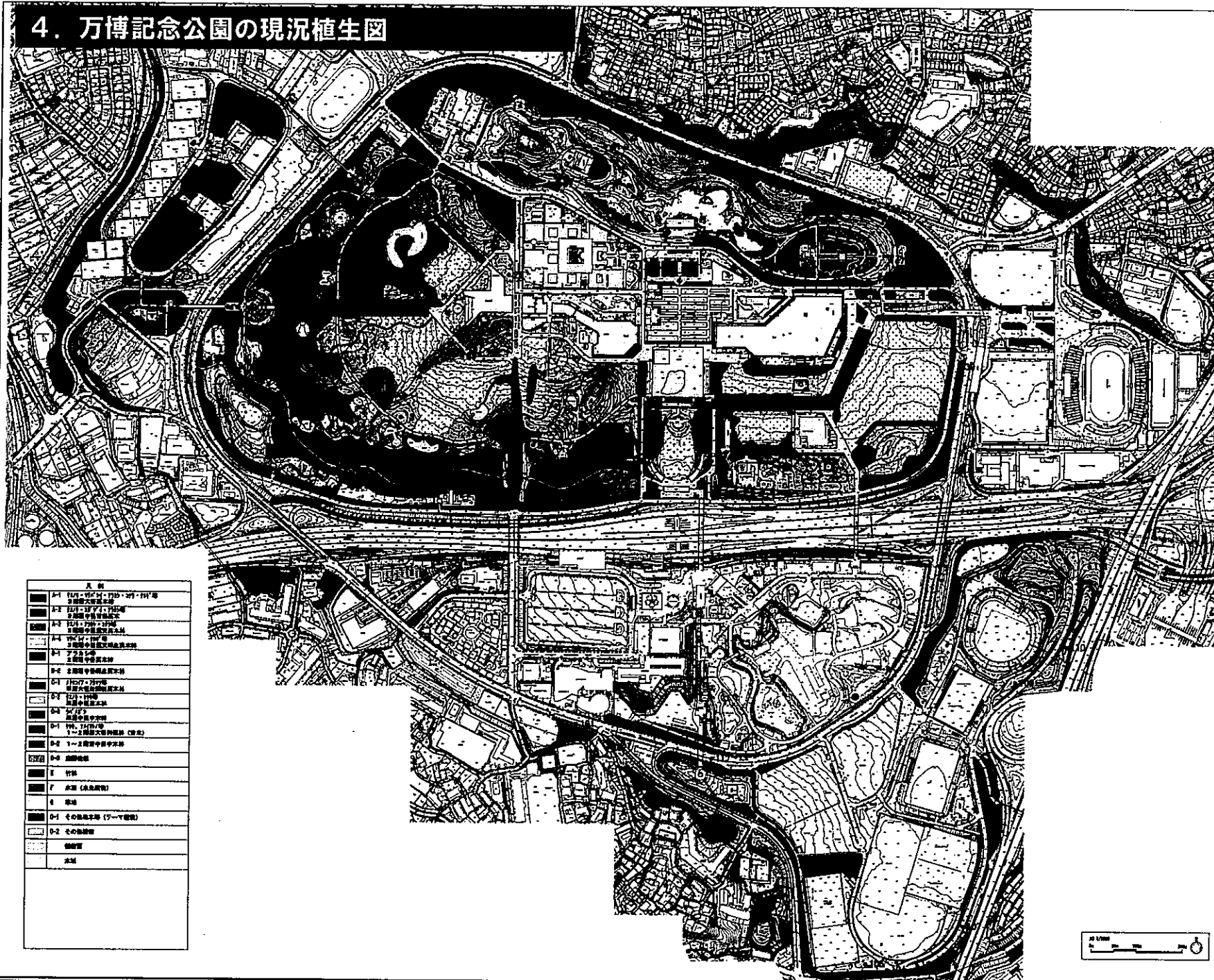
- 過去の「万博記念公園将来ビジョン (H18.07)」の方針  
「生物多様性」「CEPA※」「イベント・国際交流」  
(※CEPA: 生物多様性推進のための広報・教育・普及啓発活動)
- 各種計画の位置づけ  
「水と緑のネットワークの拠点」「人と自然のふれあいの場」
- 社会ニーズからの要請  
「共助社会」「ライフスタイルの変化」「観光」「文化・スポーツ」

## 2. 万博記念公園の緑の現況図



公園外周部からシイ、カシ等の常緑広葉樹中心の閉鎖的である樹林の密生林、真ん中には落葉広葉樹を中心とした比較的明るい樹林である疎生林、中央部には休養や軽い運動などの利用されることを想定した芝生中心とした明るい空間である散開林が配置されている。

## 4. 万博記念公園の現況植生図



## 3. 万博記念公園の「緑」の課題

### 密生林での課題

- ・ 過密林化、樹種の単純化が進み、階層構造も未形成
- ・ 人の利用頻度が少ない

### 疎生林での課題

- ・ 過剰利用に伴う踏圧等により樹勢・林床植生が衰退
- ・ 密生林化に伴う、利用区域減少
- ・ 落葉樹へのナラ枯れ被害拡大
- ・ 均一化した景観のため、魅力に乏しい

### 芝生地 (散開林) での課題

- ・ 過剰利用による芝生の衰退
- ・ 外来生物 (植物) の侵入
- ・ 更なる利活用ニーズの高まりと植栽保全とのバランス
- ・ 水系を活用した遊び場の確保

### 日本庭園での課題

- ・ 大径化・繁茂する樹木の適切な密度管理
- ・ 高い剪定技能をもった職人の確保
- ・ 管理方針 (思想) の一貫性
- ・ 入場者数の低迷

### テーマ庭園での課題

- ・ 希少品種等多く貴重であるが、規模が小さくインパクトがない
- ・ 過去の予算削減に伴う管理水準維持の困難化
- ・ 更なる魅力UPが必要

### 外周緑地での課題

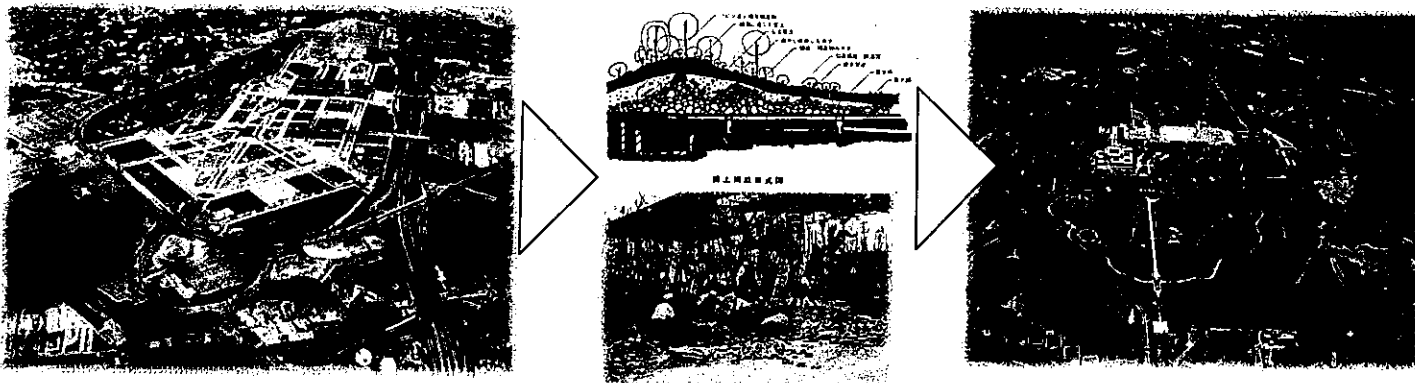
- ・ 予算不足による管理水準に伴い、竹林拡大、ニセアカシア等の繁茂
- ・ ナラ枯れの拡大
- ・ 隣接民有地からの苦情増加
- ・ 作業道が無く、管理作業にかかるコストが高い

1. 万博記念公園の森づくりの背景

- 「人類の進歩と調和」から「人と自然の共生」へ ⇒ ◆整備理念：「緑に包まれた文化公園」  
⇒①国際性を持った新しい国民的財産 ②自然環境の復活と維持 ③人と自然の調和
- 「人と自然の共生」を念頭に置き整備された先駆的な公園

2. 森づくりのこれまでの取り組み

- ◆「自立した森」を2000年に造成することを目標とした、3期の長期的プログラムが提示  
⇒①創生期（1972～1983）、②育成期（1984～1999）、③熟成期（2000～）
- ◆土地造成⇒緩やかな「すり鉢状地」に約295種、約100万本の多様な樹種を3タイプで植栽  
⇒密生林（常緑樹中心で閉鎖的）、疎生林（落葉樹中心で四季の変化）、散開林（芝生空間と緑陰）



- ◆当初2000年完成の「自立した森」の計画は、量的には実現したが質的には未完成  
⇒①過密林化 ②樹種の単純化 ③階層構造が未形成 ④動植物種に乏しい ⑤種の侵入が困難
- 2006年から「自立した森」の再生がスタート（生物多様性を目指した森づくり）  
⇒今後の森づくり手法を検討するため、万博機構内に「自立した森再生研究委員会」を設置  
⇒「自立した森づくり」計画の策定（平成35年度まで計画策定済み、生物多様性の10年行動計画）  
⇒毎木調査による本数、材積等の調査（順応的管理のためのデータ集積）

3. これまでの取り組みによる成果

- 多くの希少種が生息（オオタカの営巣等）
- 「緑に包まれた文化公園」における象徴としての「緑」
- 都市周辺における巨大なCO2吸収源
- 都市周辺におけるクールアイランド
- 人工地盤で森を再生した日本初の事例、
- 安心・安全な人と自然とのふれあいの場

4. 万博記念公園の「緑」がもつポテンシャル

- ① 憩い、安らぎ（憩い）  
人々が安心して快適に利用・憩うことのできる四季を体感する緑。
- ② 舞台として（舞台）  
文化やスポーツの行事の舞台として活用される緑。
- ③ 感動を与える（感動）  
美しい日本庭園や四季の花による、来園者が感動する緑。
- ④ 学び・自然環境学習（学習）  
自然再生の過程を理解し、人と自然のふれあいについて考えることのできる緑。
- ⑤ 芸術文化の発信（文化）  
新たな文化・芸術を生み出す活動につながる緑。
- ⑥ 国内・海外の人々との交流（交流）  
国内外の人々が「日本」を体験できる緑。
- ⑦ 新たなライフスタイル（ライフ）  
LOHAS等、自然と調和するライフスタイルを提案できる緑。
- ⑧ 癒し・健康づくり（健康）  
ハルディックウォークやスローウォーキング、ヨガ等、心と体の健康を育む緑。
- ⑨ 資源循環形成（循環）  
循環型社会、低炭素社会、自然共生社会を実現する緑。

5. 将来ビジョンにおける緑づくりの方向性（案）

- 水と緑のネットワークの拠点機能の強化
- 人と自然とのふれあいの場の形成
- 文化・スポーツを通じた交流の促進
- 共助社会の促進

対応策

緑づくりの方向性

- ① 50年の森づくりの資産を継承
- ② 人・自然・文化の関わりを通じて、新たな交流と創造を生み出す緑

6. 目指すべき「緑」の姿（案）

◆人と自然・文化・人の交流を通じて様々な創造が生まれる「緑」

- ① 人と自然がふれあう緑  
⇒生き物が豊かで生態系が安定した緑など
- ② 人と文化がふれあう緑  
⇒多くの人の関わりで育成され、多くの人が楽しむ場となる緑など
- ③ 人と人がふれあう緑  
⇒NPO、地域関係団体との連携により幼児から高齢者が楽しむ場など

1 人と自然がふれあう緑



ツリークライミング

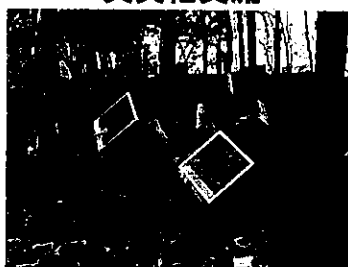


生物調査

2 人と文化がふれあう緑



異文化交流



現代美術

3 人と人がふれあう緑



森づくり



環境教育

これからの取り組み

- ① 公園の骨格となる緑を維持継承していく
- ② 水系の保全と活用
- ③ 「交流と創造」の拠点を整備する
- ④ 広大な広場であるシンボルゾーンから文化を発信する
- ⑤ 日本の文化を体感、感動を生む日本庭園
- ⑥ 外周部の緑の活用と保全

# 目標像 緑の海のなかで進歩と調和を創造する公園

資料

②水系の保全と活用

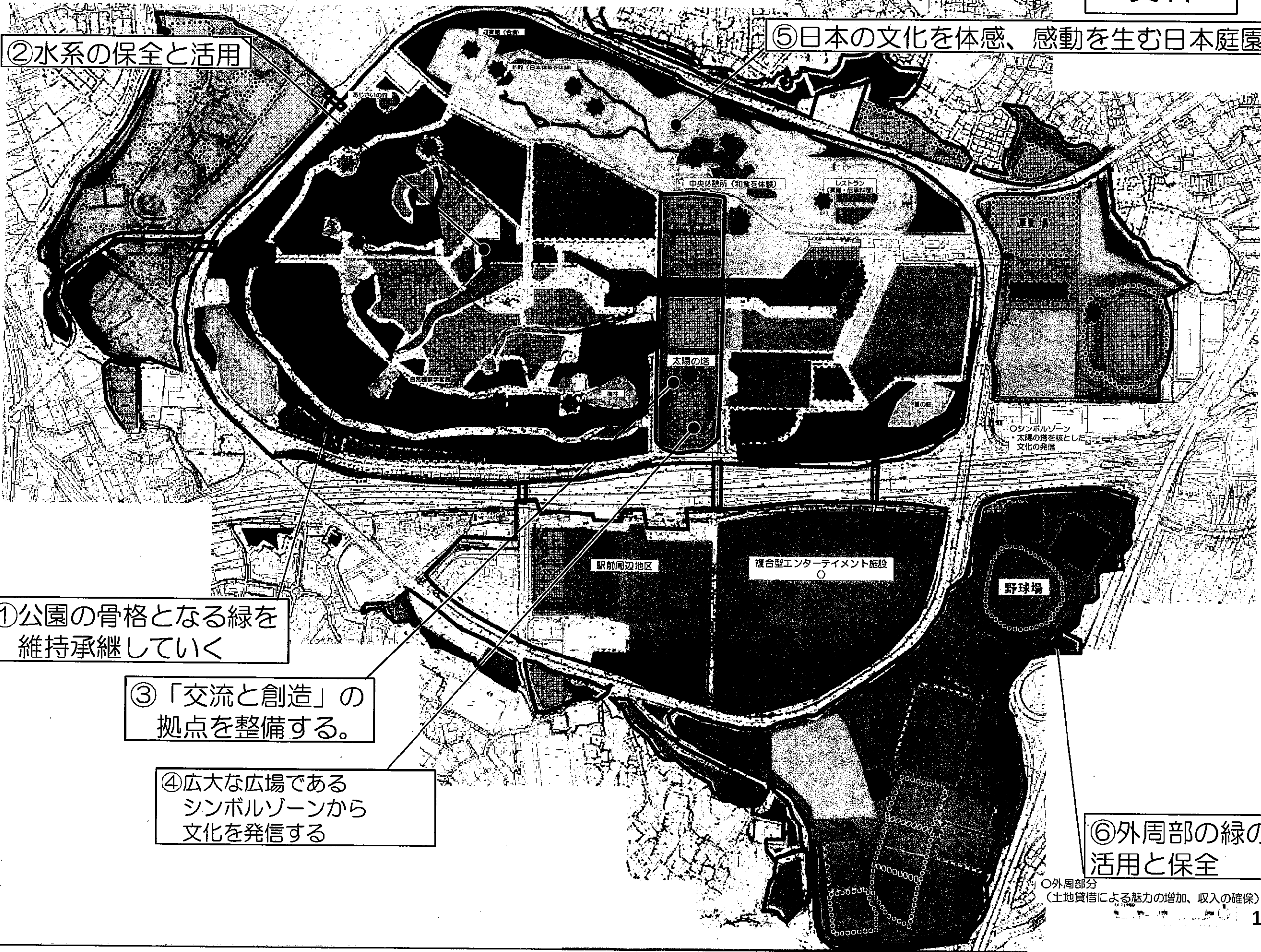
⑤日本の文化を体感、感動を生む日本庭園

①公園の骨格となる緑を維持承継していく

③「交流と創造」の拠点を整備する。

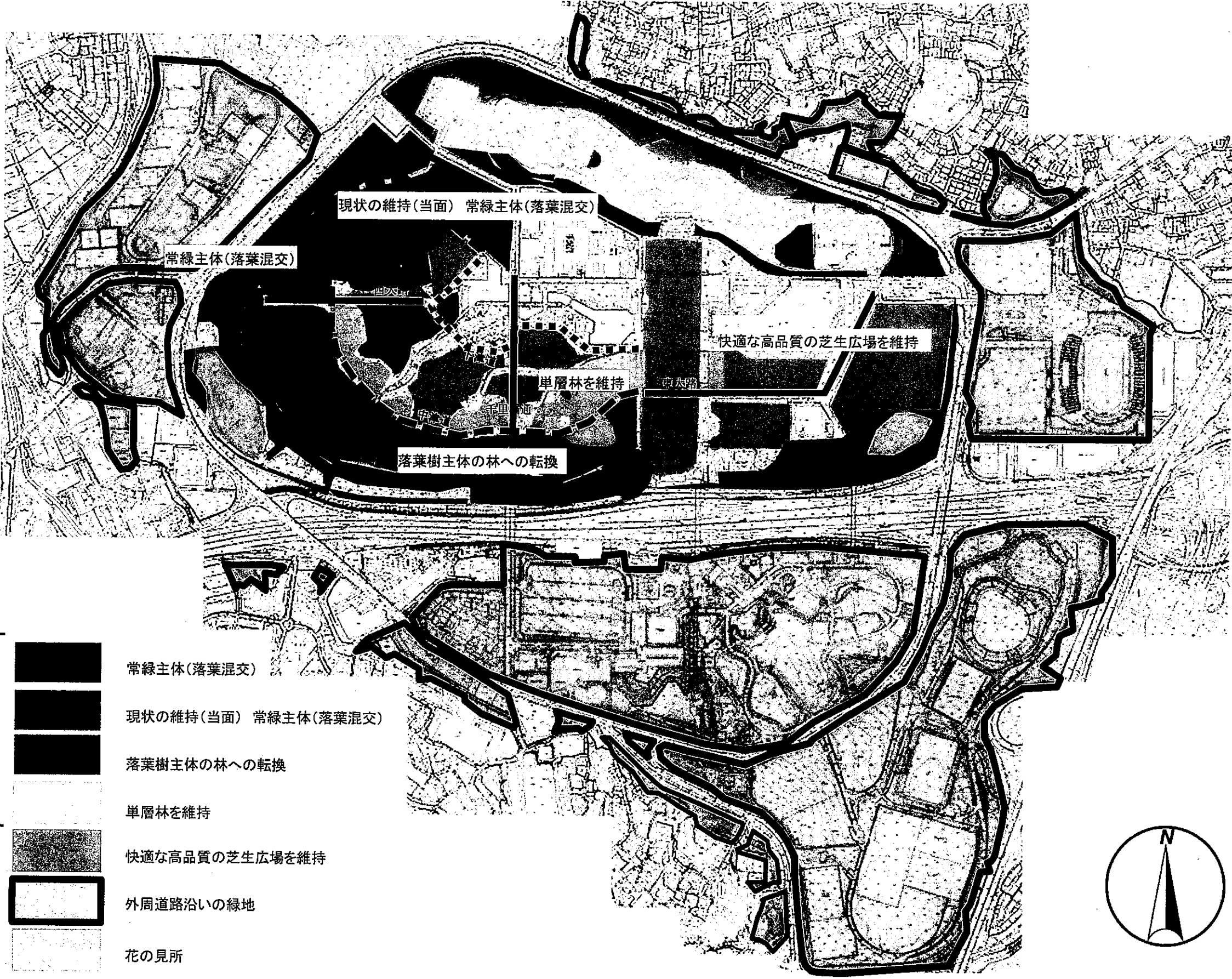
④広大な広場であるシンボルゾーンから文化を発信する

⑥外周部の緑の活用と保全










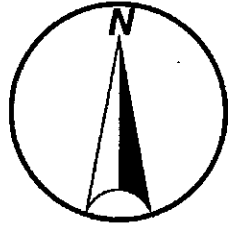
○外周部分  
(土地賃借による魅力の増加、収入の確保)

# 公園の骨格となる緑の維持承継（植生の目標（案））

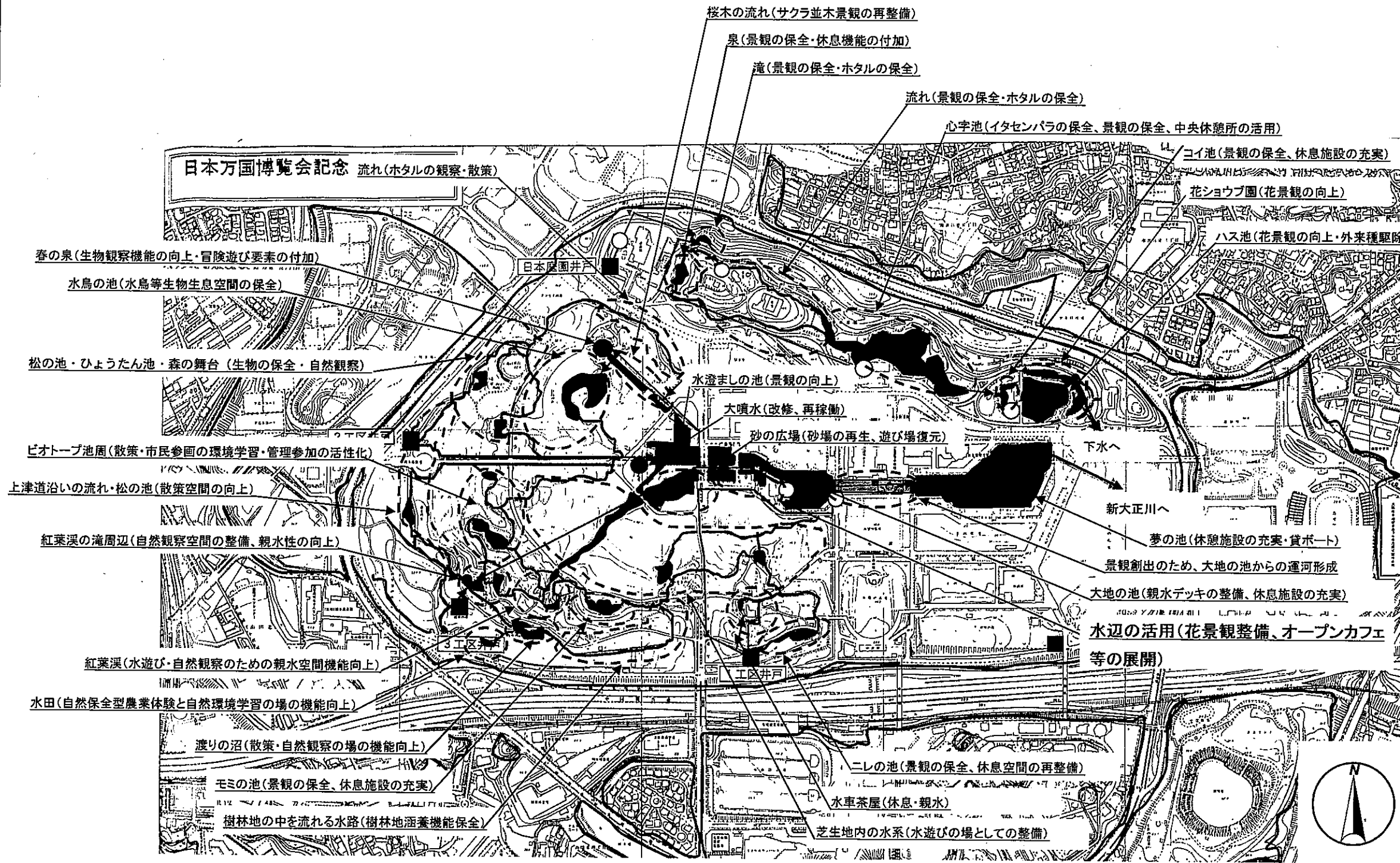


維持継承する  
骨格（核）となる緑

-  常緑主体(落葉混交)
-  現状の維持(当面) 常緑主体(落葉混交)
-  落葉樹主体の林への転換
-  単層林を維持
-  快適な高品質の芝生広場を維持
-  外周道路沿いの緑地
-  花の見所



## 1. 万博記念公園の水系の保全と活用



- 【水系の保全】**
- 園内生物多様性の保全を継続
  - 希少性の高い生物の保全を継続
  - 水系と一体となった良好な景観を保全
- 【水系の活用】**
- 水辺の遊びの場の創出
    - ・水中柵等、安全施設の設置
    - ・安全な利用の呼びかけ
  - 新たな水辺景観の創出
    - ・運河の形成
    - ・噴水の改修・再稼働
  - 水辺空間の活用・水辺景観の改善
    - ・オープンカフェ等による水際の活用
    - ・デッキ等親水施設の改善
    - ・休息施設の充実
  - 自然観察・散策空間の改善
    - ・水辺周辺空間の改善
    - ・自然観察プログラムの開発
    - ・NPO等と連携した水系動植物調査
    - ・環境保全型農業の体験
  - 日本庭園
    - ・ホテル観賞会、観蓮会の継続
    - ・心字池中央休憩所の改修・高質空間へ
    - ・親水施設の改善
  - その他
    - ・支障枝等の処理。周辺樹木の整理
    - ・水面のゴミ・流木の撤去

### 万博記念公園の水系の概要

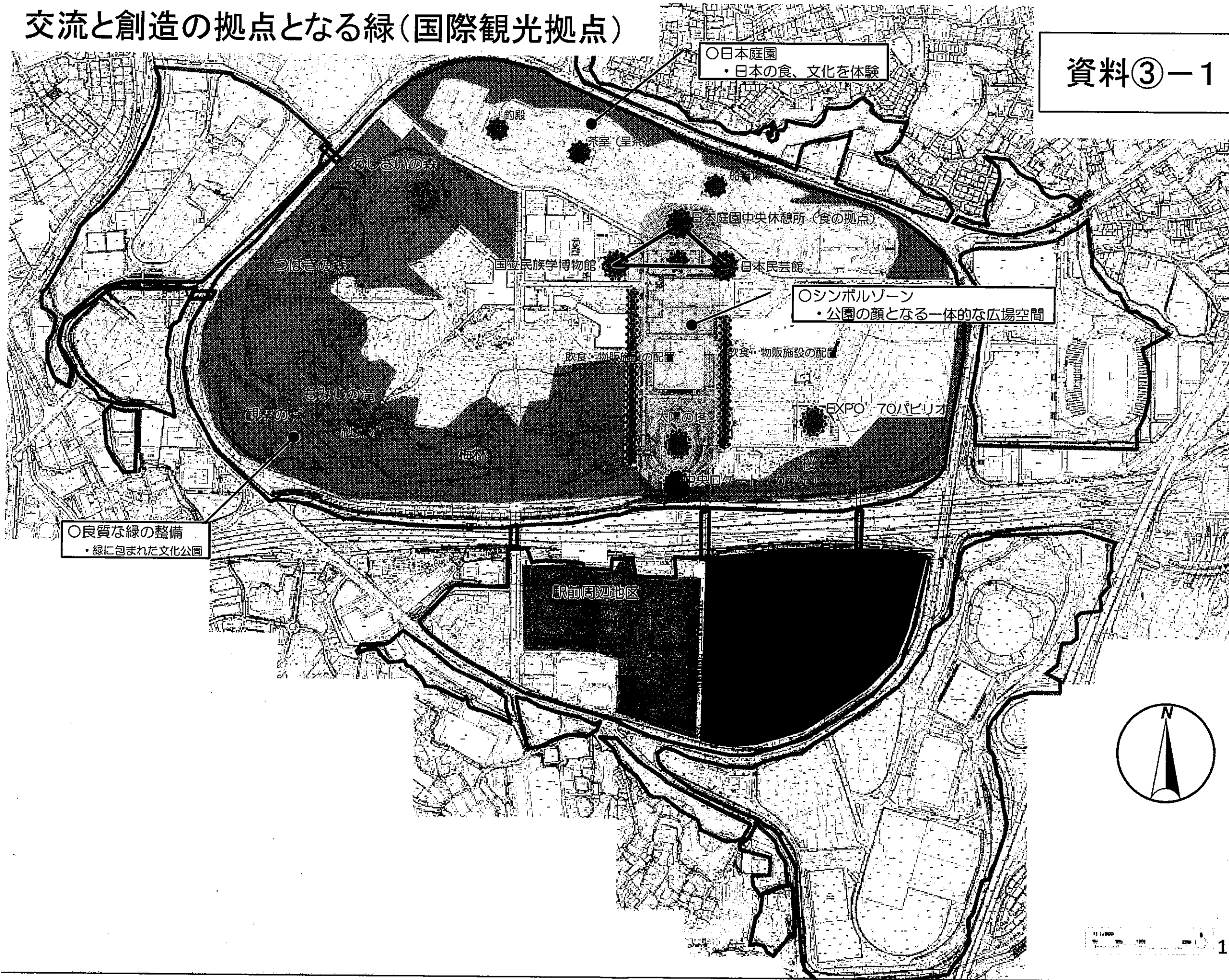
- 万博記念公園の水系は、園内で循環する閉じられた水系。
- 自然文化園を循環する水系、日本庭園を循環する水系がある。
- 水源は井戸水および天水。
- 自然文化園水系設計の当初思想は、鑑賞や遊びの機能と併せ、山中の自然と同様、自然文化園内の水系から水を溢れさせ、樹林地内を適度に灌水させるための水系であった。
- しかし、井戸の水量が期待したほど豊富ではなく、溢水は断念。代わりに樹林地内に水系を張り巡らせ、蒸散する水蒸気により樹木の成育を助けることとした。
- そのため、森のある自然文化園西側には、水路、池が多く配置されている。

**【凡例】**

- 水路・池
- 管渠
- 井戸
- ポンプ

# 交流と創造の拠点となる緑(国際観光拠点)

資料③-1

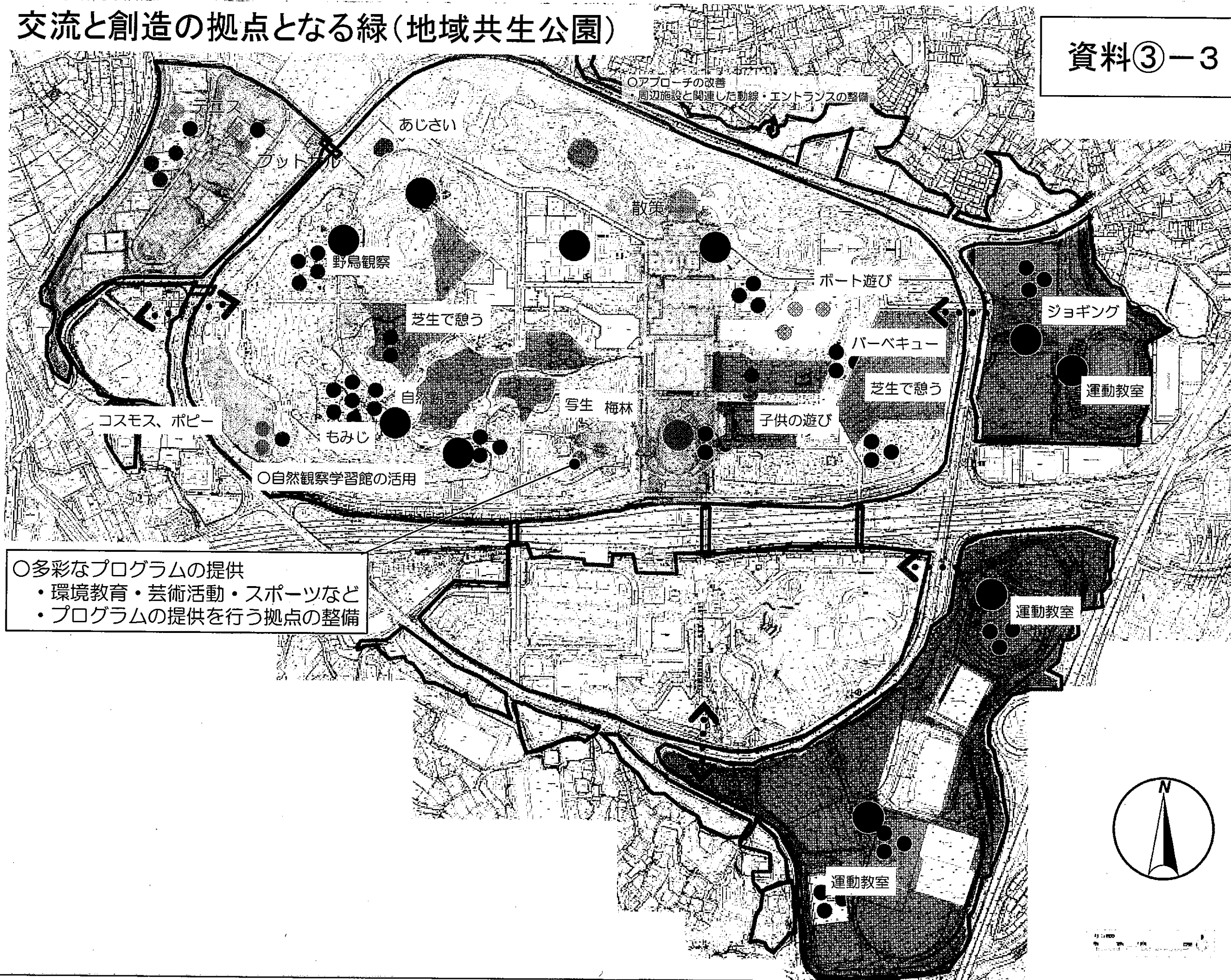






# 交流と創造の拠点となる緑(地域共生公園)

資料③-3



【整備の目的】

- 公園の主要施設が集合するため、重点的に整備を行い、「人類の進歩と調和」を具現化し、観光集客と賑わいづくりの拠点となる空間とする。

【ポテンシャル】

- 大阪万博の象徴である「太陽の塔」
- 集客力の高いイベントが行われている「お祭り広場」
- 高質な文化施設である、国立民族学博物館と民芸館
- 日本の造園技術の粋を展示する日本庭園
- 世界的に流通のない希少種が多い「平和のバラ園」

- お祭り広場（ラーメン博、ラジオ祭、鉄道祭等 17回/年程度）
- 日本庭園（蛸のタベ、早朝観蓮会等、10回/年程度）
- バラ園（ローズフェスタ）、さくら並木（さくら祭り）、太陽の塔前広場（イルミナイト）
- 大道芸人のパフォーマンス
- 緑陰下での飲食・休憩
- 幼稚園・保育園・小中学校の遠足

【空間の課題】

○視点

- 太陽の塔を眺める施設の不足。
- 中央口から日本庭園が認識しにくい。
- ⇒シンボルゾーンをひとつの広場空間として整備。
- 景観の魅力は、芝生の「緑」と太陽の塔の「白」との2トーン。良好な芝生を整備。
- 空間の分断要因である庭園前駐車場の移設（もしくは複層化）など

○賑わい

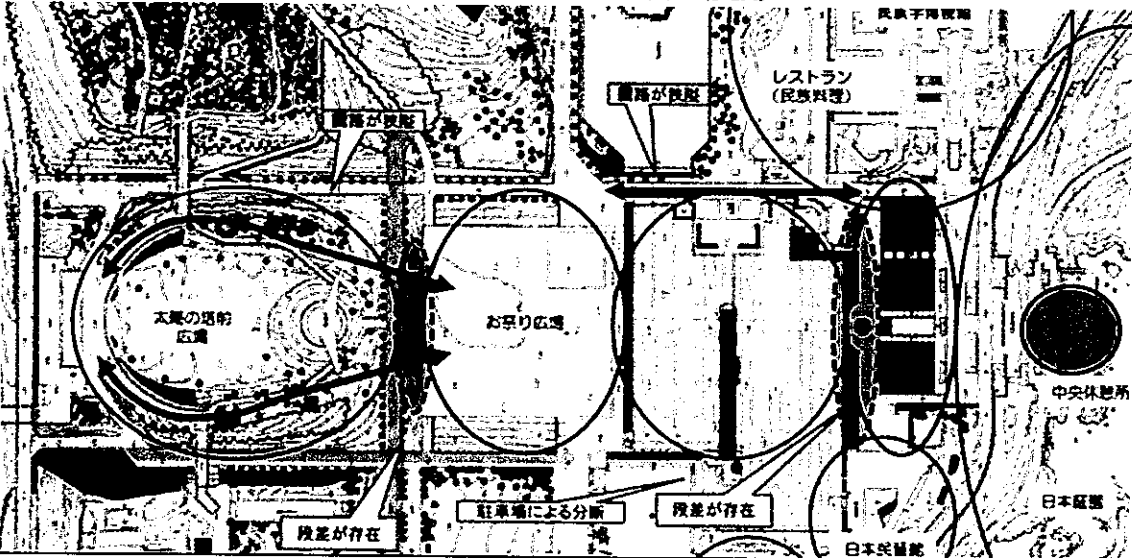
- 飲食・お土産など観光・賑わいづくりの施設が少ない。
- イベントが無いときの「お祭り広場」の寂寥感
- ⇒カフェ、売店、レストランの増設。
- 国際的なイベントの実施。

○動線

- 部分的に狭隘、庭園前駐車場による分断。（分断要素であるが、利便性高く機能の存置必要。）
- 段差が存在。（3m程度の高低差で分断。）
- 時間の無い観光客にとって空間が広い。
- ⇒段差の解消（お祭り広場の階段撤去など）
- 移動手段の確保（人力車の運行など）
- 現在のバラ園部分に休憩施設、テントを設置。
- 芝生中央部分をレンガ・石舗装に転換。中央口から太陽の塔まで直接アクセスについて検討。

○誘導

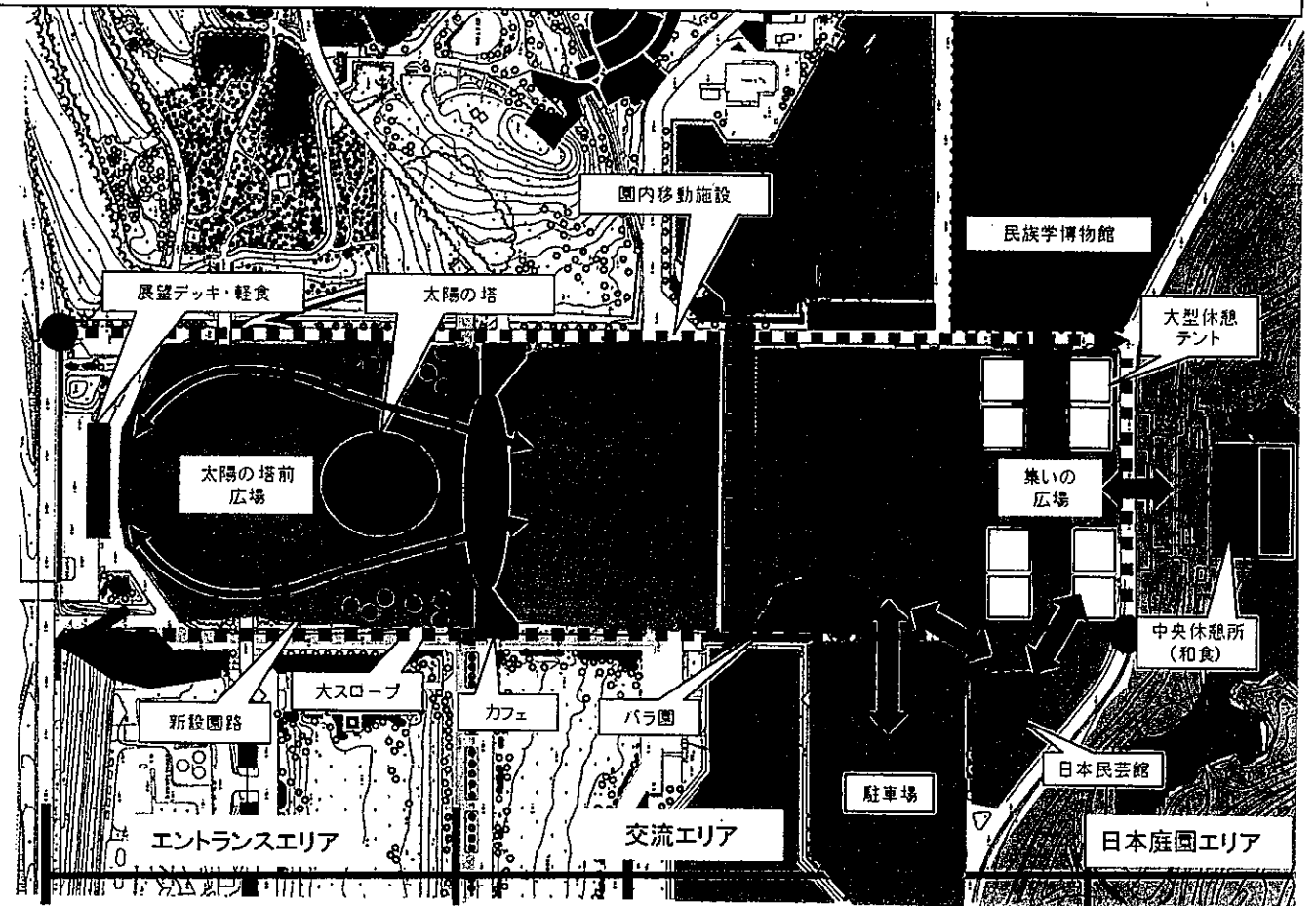
- 日本庭園への誘導が希薄。（バラ園はかつて美術館・万博ホールのエントランス修景として機能）
- バラ園が民族学博物館、民芸館、日本庭園を結びつける空間になりえていない。
- ⇒バラ園の移設（お祭り広場から日本庭園までの両側に移設）



【各エリアの整備の方向性】

エリア	エントランスエリア	交流エリア	日本庭園エリア
万博の入り口として	太陽の塔を眺める美しい景観を形成。太陽の塔を眺める軽食カフェを設置し、利便性の高い空間とする	多彩な行事の可能な広場を形成し、人々の交流を生む空間とする。	食、景観、文化の面から日本を体感できる空間とする
コンセプト	人工物と自然との調和（現在～万博以後）	多彩な文化の交流（万博開催～）	日本文化の伝統的技術（近代）
イメージ	再生された緑と万博の遺産との調和	万博開催当時の熱気イベント・交流	近代日本を支えた日本の伝統技術
眺望対象	太陽の塔前面（現在・未来）	太陽の塔背面（過去） 日本庭園芝山、月の世界	日本庭園築山、心字池など
場の雰囲気	玄関（荘厳、圧倒）	座敷（活動、日常）	奥の間（くつろぎ、伝統）
活動	散策、写真、見学	イベント、鑑賞、交流、学び	鑑賞、食
施設	太陽の塔、芝生広場、中央ロゲート、カフェ、売店	お祭り広場、バラ園、国立民族学博物館、日本民芸館、駐車場、旧児童文学館、月の世界、大型テント、売店	日本庭園（芝山、心字池）、日本庭園中央休憩所（和食）、眺望デッキ、

【シンボルゾーンの将来像】（イメージ案）



### 【目標】

#### ①国際観光公園

- ・今後、集客の増加が予想される東アジア、東南アジアの方が日本を体験して感動する公園。

#### ②地域共生公園

- ・多様な利用がなされ交流が促進する庭園。特に、平日の利用、子ども、学生、高齢者が楽しむ庭園。

### 【ニーズ把握】

#### ①国際観光公園（東アジア、東南アジア）

- ・日本らしい体験
  - 食（和食、呈茶）
  - 文化（茶道、華道、書道、着物）
  - 生活（畳、濡縁、足湯）

#### ②地域共生公園

- ・自然との触れ合い（四季、生きもの）
- ・安全・安心

#### 大阪観光局ヒアリング

- ・来阪の観光客は「食べる」、「買い物」、「まち歩き」を堪能
- ・万博は良いコンテンツ、海外の観光業者への広報や周遊パスなどへの組み込みが有効
- ・コンビニ、レストランがあり、手ぶらで来ても食事について心配が無いことが大切。日本人と同じ体験がしたい。
- ・和をテーマとした観光ホテルがあれば1日滞在する観光客も確保できる。大阪には和のホテルが少ない。（遠い）
- ・民芸館は陶器を（安価に）買うことができることが魅力。

### 【日本庭園の役割（園内施設との役割分担）】

日本庭園で「日本」を見せ、感動してもらう。

#### ①みどりの役割分担

- ・自然と庭園をしっかりと見ていただく。

	要素	方向性
日本庭園	○造園技術 ○建築物（自然との共生）	○見所をしっかりと見せる。 ○建築物で食と日本のライフスタイルを体験
自立した森	○生きものとの触れ合い ○テーマ園（四季の変化）	○都会のなかで生きものと触れあう。 ○四季の花を見ていただく。
緑地広場	○緑のなかでのイベント ○開放感（憩いの場）	○広大な広場で快適なイベントを味わう。 ○心地よい芝生で開放感を味わう。

#### ②文化施設の役割分担

- ・庭園技術、日本の四季など日本の自然を体感していただく。

	要素	テーマ	方向性
日本庭園	○日本の造園技術 ○日本の建築	○自然の美しさ	○感動する景観
国立民族学博物館 《日本展示》	・祭りや芸能、 ・日々の暮らし、 ・沖縄の暮らし、 ・多みんぞくニホン ※『世界の食事』	○日本文化の多様性 ・「ハレ」と「ケ」	○深い理解
日本民芸館	陶磁器、染織品、木漆、 編組品など国内外の民 藝品を展示 日本の民芸品を販売	○民芸品の素朴な美	○販売の充実

### ③食の役割分担

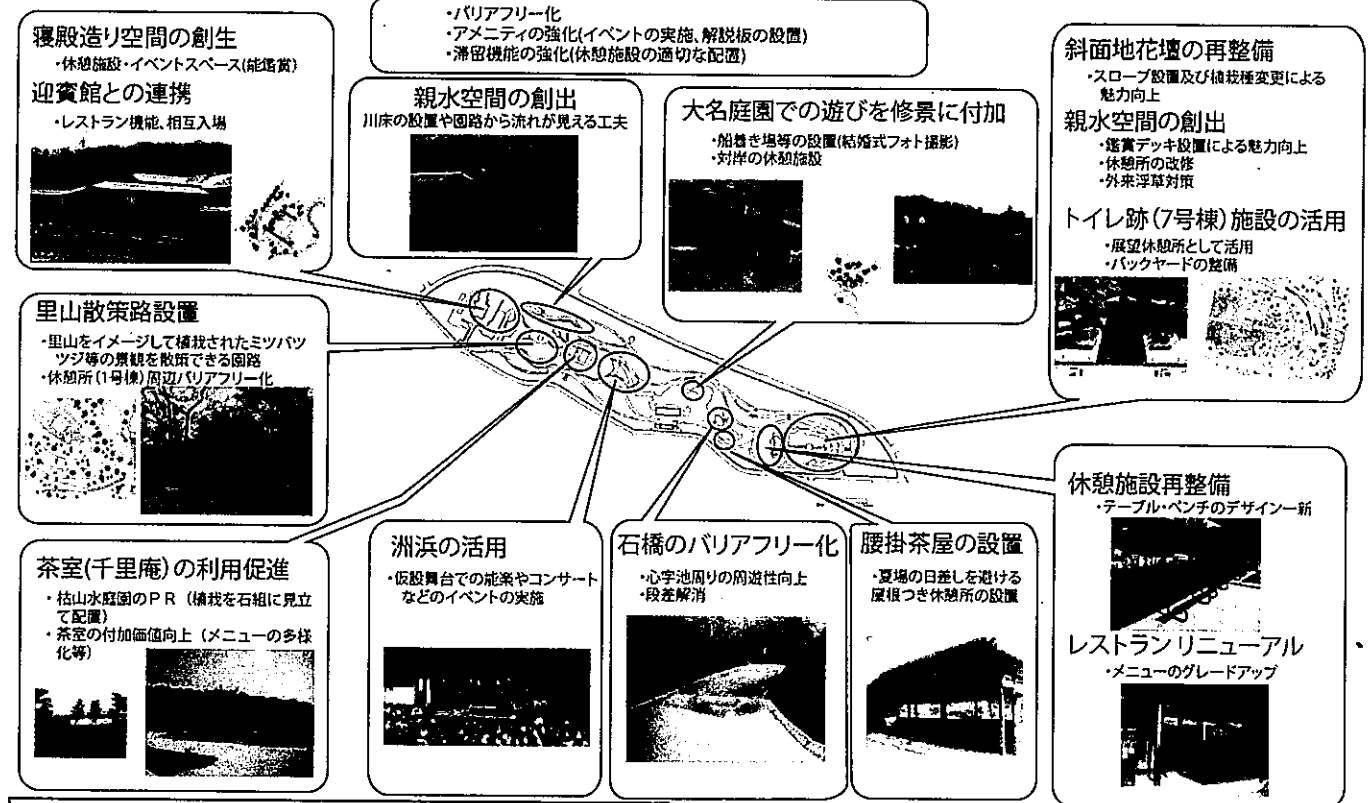
- ・日本庭園は日本の食を提供する。

要素	施設	テーマ
○南側ゾーン	フードエンターテインメント	世界各国の食、地元大阪の食が楽しめる食の空間
○ホテル阪急	ヴァイキング 日本料理店	世界各国の食・日本料理
○太陽の塔周辺	カフェ・売店	公園利用者へのカフェ・軽食
○日本庭園	中央休憩所 茶室	日本の食
○広場	お祭り広場など	多様なテーマ ・ラーメン博、ロハスなど

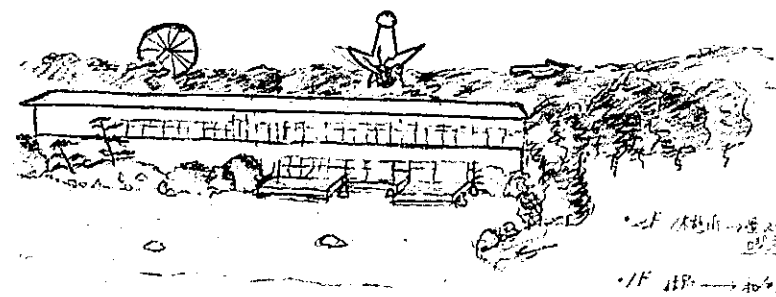
### 【日本庭園の将来像】

- 日本の自然、造園技術、建築における生活様式、食、伝統芸能を総合的に見せる施設とする。
- 見て、感動する高品質な管理水準を保つ。
- 修景ポイントを明確に示す。

#### 日本庭園の魅力向上 イメージ図



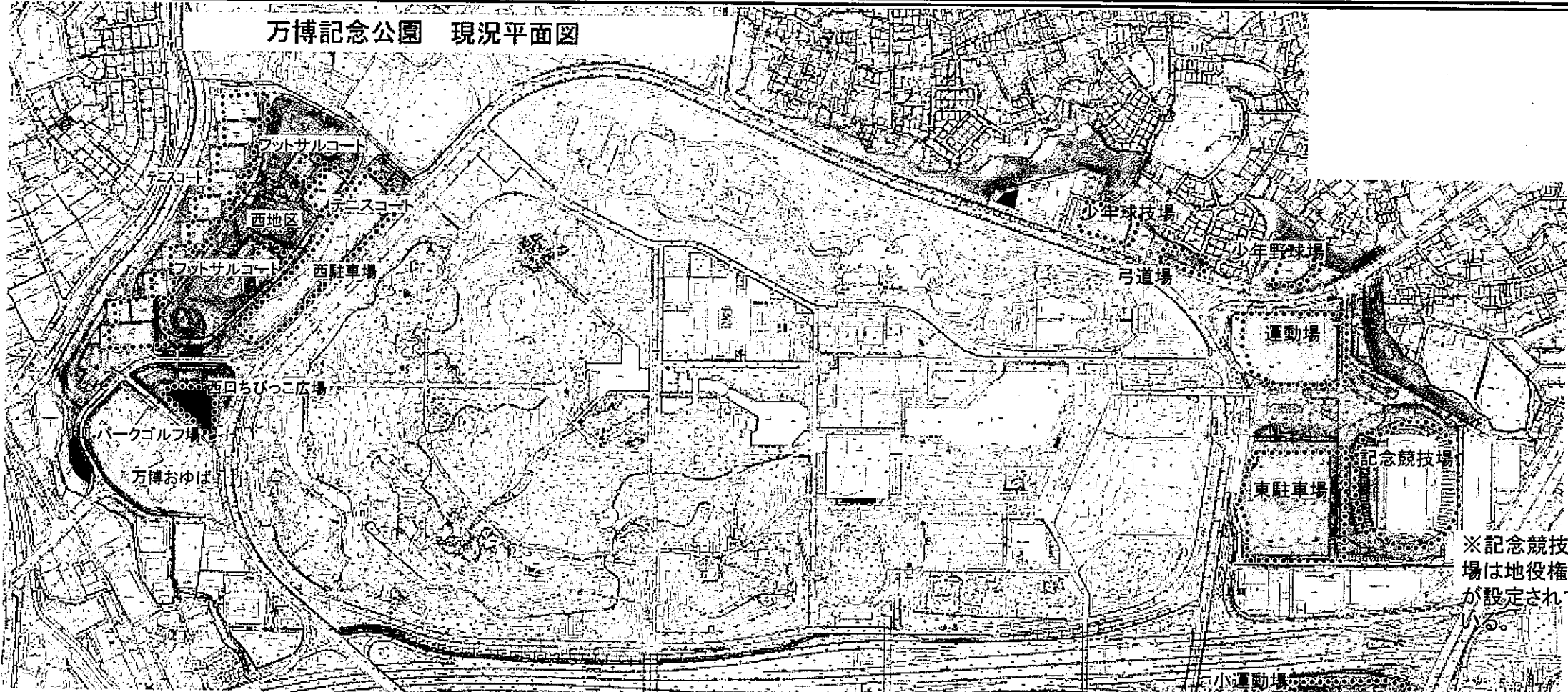
#### 中央休憩所イメージ図



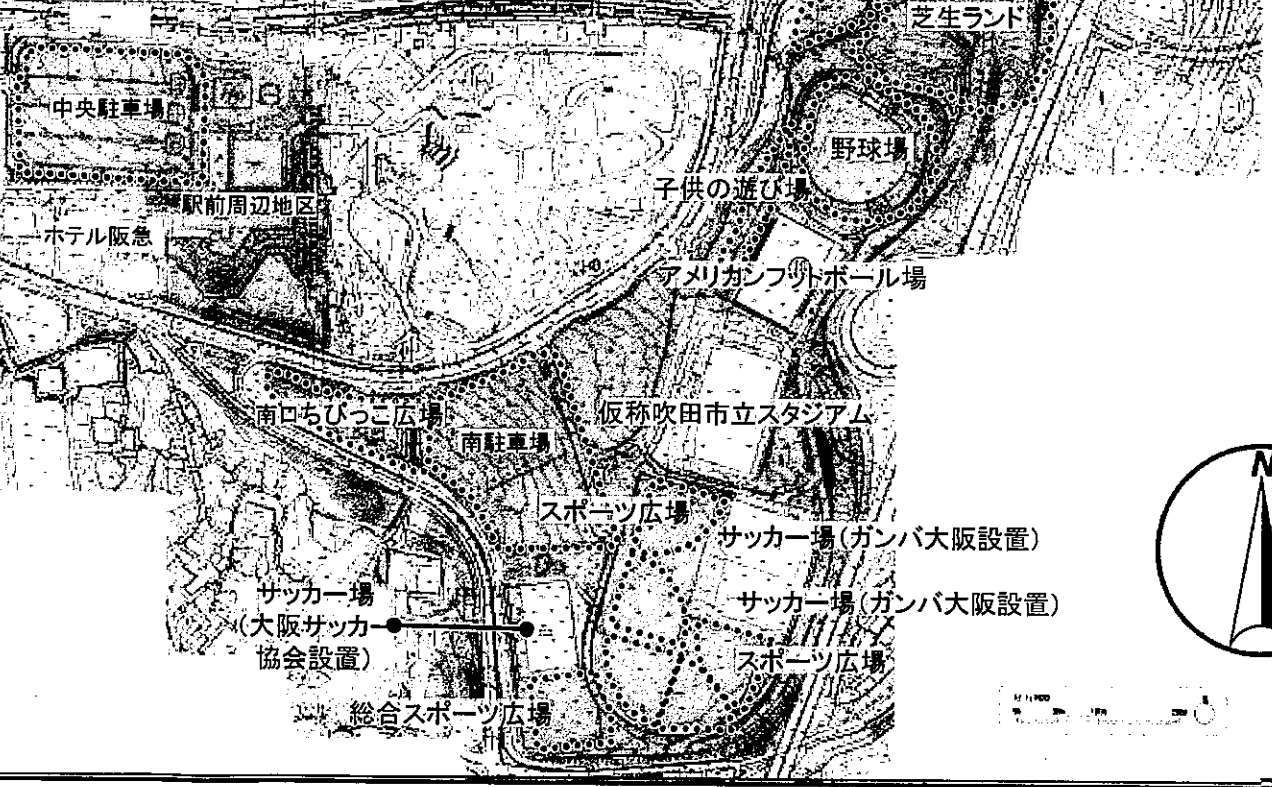
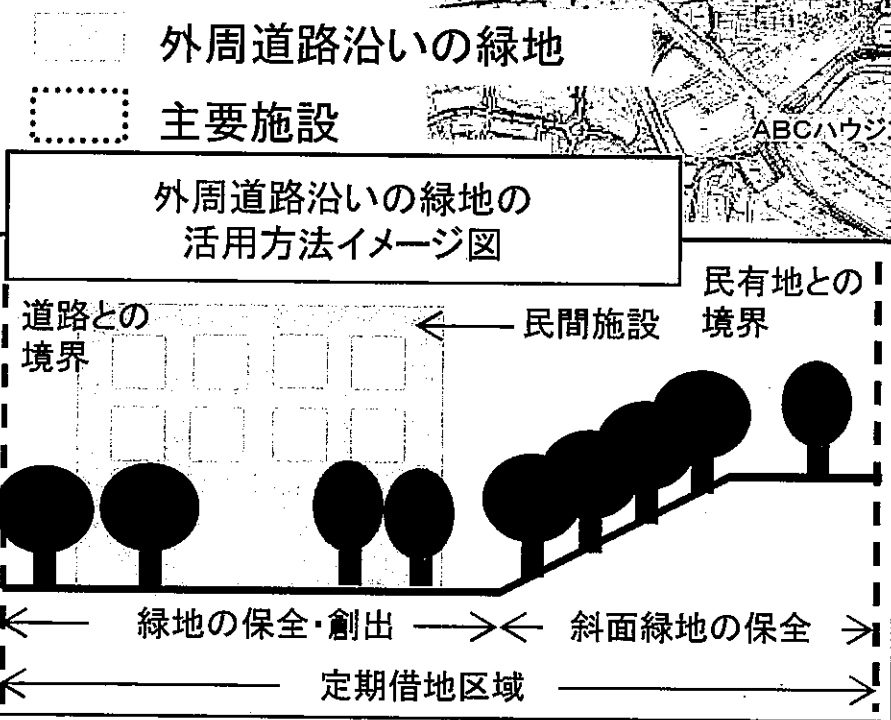
- ・中央休憩所に和食を楽しむ施設を設置。
- ・手軽に楽しめる幕の内や松花堂弁当など。
- ・築山からの眺望に配慮。

# 外周道路沿いの緑地の運営方針（案）

資料⑥



※記念競技場は地役権が設定されている。



# 園内移動手段の確保（案）

資料⑦



